

学会だより

(1) 教育学部関係の人事異動は、今年は全くありませんでした。

(2) 曾布川拓也先生は、チェコ科学アカデミー数学研究所その他での1年間の在外研究を終えられ、元気でお帰りになりました。その体験を「欧州留学から帰って」と題して寄稿していただきました。

(3) 「中学校数学学力診断調査会」は、平成14年に岡山県で開催される中・四国数学教育研究大会に向けて、引き続き鋭意研究調査を行っております。今年の3月に実施した調査問題についての考察が、本学会誌に掲載されています。

(4) 「小学校算数学力診断調査会」は、全ての領域の調査・分析を終え、授業改善の試みを積極的に行っております。

(5) 附属中学校の大月一泰先生は『個性を生かす数学教育のあり方——選択数学の学習を通して——』の研究題目で福武教育振興財団より教育研究助成を受けました。本学会の「算数学力診断調査会」は、研究題目『算数科における「つまずきの多い指導内容とその授業改善」に関する研究——「数と計算」の領域を中心に——』で教育改善推進費（学長裁量経費）の配分を受けました。

(6) 第8回談話会を平成12年10月28日（土）に、教育学部講義棟1階5101号教室で行いました。今回は「小学校算数学力診断調査会授業改善中間報告」として、糸島耕太郎先生（昭和63年卒）、森金永二先生（平成3年卒）、深井文雄先生（昭和53年卒）、片山晴夫先生、杉能道明先生（平成元年卒）に発表していただきました。内容の概略については後出の報告をご覧ください。

(7) 平成12年7月23日から27日までの5日間にわたって、広島市の広島国際会議場を中心に開催された、「第24回数学教育心理研究国際会議（PME24）」で研究発表をなさった、岡部初江先生（昭和48年卒）、末廣 聡先生（平成2年卒）、洲脇史朗先生（昭和58年修了）に、その報告を寄稿していただきました。また、平成12年11月9日～10日に開催された、第33回中国・四国算数数学教育研究（広島）大会で研究発表を行った林田実先生（昭和58年卒）に、その報告を寄稿していただきました。また、2001年3月16日から18日にかけて、米国オハイオ州コロンバスにおいて開催された「Teachers Teaching with Technology 2001」に参加された末廣 聡先生（平成2年卒）に、その報告を寄稿していただきました。ありがとうございました。

(8) 次の7名の方々が本学会に新しくご入会なさいました。敬称は省略させていただきます。永田真紀（ベネッセ・コーポレーション、東京）、寺本義人（大学院生、数学教育専攻）、芦田俊彦（津山市立中道中学校）、岩根亜紀（総社市立総社小学校）、玉井淳博（大学院生、数学教育専攻）、松岡和俊（大学院生、学校教育専攻）、小林文美子（大学院生、カリキュラム開発専攻）。

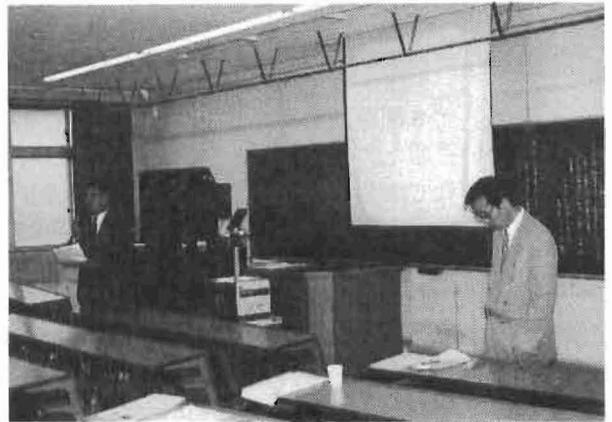
第8回談話会について

第8回談話会を平成12年10月28日(土)に、岡山大学教育学部の講義棟1階5101号教室で行いました。今回は、「Open-Endの問題の開発とその評価方法」と題して、総社市立西小学校の糸島耕太郎先生、「学力診断調査に基づく高学年における「数と計算」の授業改善—「算数的活動」を生かした新しい「分数」の指導—」と題して、岡山県教育センター長期研修員(岡山市立大野小学校)の森金永二先生、「算数的活動を生かした「量と測定」「図形」の授業」と題して、岡山大学教育学部附属小学校の深井文雄・片山晴夫・杉能道明の3先生による発表及び質疑応答を行いました。

以下、糸島耕太郎先生、森金永二先生、深井文雄・片山晴夫・杉能道明の3先生の先生方の発表及び質疑応答等について簡単にご報告いたします。

◆ 糸島耕太郎先生 (総社市立西小学校)

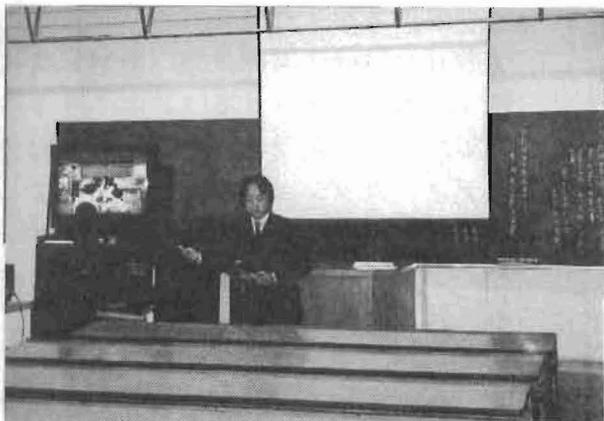
○今年度使用している算数の教科書の中にあるオープンエンドの問題，オープンエンドの問題を算数の指導に取り入れる意義，教育課程審議会答申について，オープンエンドの問題を算数の指導に取り入れる際のポイントの発表に引き続き，小学校3年生で実践された「わり算の作問」の授業について発表していただきました。評価表における「柔軟性」，「流暢性」，「独創性」の内容や結果数値についてを主に質疑応答を行いました。



◆ 森金永二先生

岡山県教育センター長期研修員
(岡山市立大野小学校)

○10月25日から27日に岡山市立大野小学校で実践された授業の中から分数カードを使って「課題発見的な算数活動」、「既習事項を生かす算数的活動」の2つについて、授業風景のビデオを交えながら、児童の表情に解説をいただきながら、発表をしていただきました。カードの活用の意義について、前後の分数の指導の流れについて、指導案についても話題になり、談話が進みました。



◆ 深井文雄・片山晴夫・杉能道明先生

岡山大学教育学部附属小学校

○深井文雄先生からは、2年生の授業実践の中から「100mをこえる長さ」について発表していただきました。キーワードは体験的な活動ということで、いろいろなもので1mを探したり、作ったりする中から、1mを体得していく内容でした。片山晴夫先生からは、6年生の授業実践の中から「立体の展開図」について発表していただきました。キーワードは思考実験的な活動ということで、三角柱の展開図をたくさん考えさせる中で深めさせていく内容でした。



杉能道明先生からは、4年生の授業実践の中から「垂直と平行」について発表していただきました。キーワードは作業的な活動ということで、地図の道から垂直に交わっていることを作業を通して得ていく内容でした。

長さから重さやお金に広げて、概数の話や金銭感覚の話にもなりました。展開図では、いくつできるか、点でついている展開図についてはどう捉えるか等の話になりました。垂直では、離れていても垂直の説明について等、どれも活発な話し合いとなり、有意義な談話会となりました。

(幹事 大月一泰, 平野圭一)